

(海外・国内) 出張報告書 (学生用)

2014 年 7 月 31 日提出

氏名	石井千尋
所属	毒性学教室
学年	博士課程 1 年
出張先	熊本
出張期間	2014 年 6 月 20 日～22 日
目的	リーディング学生会議

活動内容 (2,000 字程度、活動内容が判る様な写真や図表を加えて下さい)

本会議の主題は「博士の Employability と博士教育と社会との接続」であり、学生側が考える社会のニーズと企業・行政側が考える現実社会のニーズを埋めるための解決策を見出すことを目的に、様々な観点からの博士号取得者の雇用問題に関する議論やパネルディスカッションを行った。

1 日目 (6/21)

まず、ランチョンセミナーとして萩原 新一氏 (ゼンカイミート株式会社代表取締役) による講演が行われた。萩原氏は日本におけるハラルフードの需要に注目し、特にハラルビーフの販売に取り組んでおり、どのような経緯で事業を始めたのか、どのように事業を展開していったのか、などが説明された。会場では昼食としてドネルケバブが配布され、実際にハラルビーフの味を体験することができた。



(写真 1. グループディスカッションの会場)

その後はグループに分かれ、リーディング関連のテーマを対象としたワークショップを行った。この際、課題ごとにグループを変えていき、様々な人と様々なテーマについて話し合った。ここでは、学生以外にも、今回の会議における講演者である萩原氏、Devang Thakor 氏や、リバネス、化学及血清療法研究所の社員の方も加わり、活発なディスカッションが行われた。テーマとしては、例えば博士課程卒業者に求められているものは何か、自分の希望進路と社会とのギャップをどのように埋めていくか、などである。各々の意見をポストイットに記入していき、その後グループ内で似た意見同士をまとめ、という作業を課題ごとに行った。多国からの留学生が参加していたため、ディスカッションは基本的に英語で行われた。各大学におけるリーディングプログラムの特色を交えながら意見を言い合い、他大学のプログラムについても知ることができた。非常に強く感じ

ているものは何か、自分の希望進路と社会とのギャップをどのように埋めていくか、などである。各々の意見をポストイットに記入していき、その後グループ内で似た意見同士をまとめ、という作業を課題ごとに行った。多国からの留学生が参加していたため、ディスカッションは基本的に英語で行われた。各大学におけるリーディングプログラムの特色を交えながら意見を言い合い、他大学のプログラムについても知ることができた。非常に強く感じ

たことは、他大学のリーディングプログラムは企業就職を視野に入れ、就職後即戦力となる人材の育成に力を入れている、とうことである。最後は初めに配属されたグループに戻り、リーディングプログラムをより良くするために、どのような改善方法が考えられるか、またどのように社会に提案していくべきか、などをまとめた。これらは 2 日目にグループごとでの発表が決まっており（発表形式はスライド、模造紙、演劇などどんな方法でも可能）、そのためのディスカッションを行った。また、進められる限り、各グループで発表準備を行った。

2 日目（6/22）

初めに熊本市長の挨拶があり、続いて「博士の Employability と博士教育と社会との接続」とテーマとしたパネルディスカッションが行われた。Devang Thakor 氏（米国特許商標局特許審査官）、喜久里 要氏（大阪大学総務企画部経営企画課長）、藤沢 久美氏（シンクタンク・ソフィアバンク代表）により、（1）日本の博士人材と海外の博士人材の違いとは何か、（2）日本の博士教育において、どのような改革をどのような目的で行うべきか、（3）その教育改革を受けた博士人材はどう社会に貢献していくべきか、を議題として講演が行われ、最後に学生からの質疑応答に対して 3 人の講演者それぞれから解答がなされた。また、その後「イノベーション from 九州」と題して武雄市長の樋渡 啓祐氏 による公開講義が行われ、市長のこれまでの人生や武雄市の改革にどのように取り組んできたか、などが動画付きで紹介された。

午後は 1 日目の最初のグループに分かれ、発表準備を終わらせた後、グループごとに順に発表を行った。各班それぞれ個性があり、今後の取組の案として、リーディングプログラムのドラフト会議を行う、各大学で交流を深めて他大の良い点を取り入れる、などさまざまな意見が発表された。

指導教員確認欄	所属・職・氏名： 毒性学教室 教授 石塚 真由美 印
---------	-------------------------------------

※1 電子媒体を e-mail で国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出するとともに、指導教員が押印した原本を国際連携推進室・リーディング大学院担当に提出して下さい。

提出先：国際連携推進室・リーディング大学院担当

内線：9545 e-mail: leading@vetmed.hokudai.ac.jp